

平成28年9月第4回定例会一般質問事項（9／20・21）

1 渡辺 竜彦 議員（志政会）

（1）ヘルパンギーナの現状について

- ・今年6～8月までの市におけるヘルパンギーナの患者数は。また、この患者数は例年に比べ、増加しているのか、減少しているのか。
- ・市内の幼稚園の中での、ヘルパンギーナの感染状況は。

（2）ビッグデータの活用について

- ・ビッグデータを活用し、参考にして見守り強化や道路整備など改善した地点は52カ所に上るといいますが、市において改善された箇所はあったのか。また、改善された場所は事故が減るなど効果があったのか。
- ・今後4年間で、県内191小学校区で対策を進めていくというが、市内における小学校区は、どのようにこのビッグデータを活用して交通事故防止につなげていくのか。

（3）安心・安全な学校を目指して

- ・市内の小中学校は、不審者対策としてどのようなことを行っているのか。
- ・安心・安全対策には地域との協力、連携対策といったものが欠かせないと思うが、地域との協力体制はどのように行っているのか。

2 上出 純宏 議員（志政会）

（1）三国湊の日本遺産登録に関わる動きについて

- ・27年度9月定例会の一般質問後に、北前船に関わる日本遺産登録を目指して、市はどのように対応したのか。今日までの経緯を伺う。
- ・「坂井市まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」の45ページには、「越前加賀海岸国定公園の世界自然遺産登録、北前船寄港地の日本遺産認定に向け市民協働で多様な資源及びその周辺の魅力向上に取り組みます」とあるが、総合政策部においては、今回の日本遺産登録メンバーに加われなかったことについて、アクションを起こす体制を作っていなかったのではないのか。
- ・来年4月に登録運動の結果が出るが、今からでも登録メンバーに加わることはできるのか。

3 南川 直人 議員（志政会）

（1）健康に寄与するスポーツの現状とその環境と展望について

- ・市には丈競山、火燈山などがあり、多くの登山者が訪れるが、登山道の標識などは万全か。また、年間入山数は把握できるか。これらの入山者は竹田における宿泊数に好影響を与えているか。
- ・東京五輪に追加されたスポーツライミングの普及として、竹田にオープンしたちくちくぼんぼんに、屋内ウォールやボルダリングウォールなどの設置はできないか。

- ・市内の宿泊施設に複数泊滞在してもらうことを目的とする学生合宿促進事業補助制度の現状と、今後の進め方について、どのように考えているか。
- ・東京五輪に追加されたスケートボードについて、県内には、まだ専用練習場がない状況であるが、普及促進のためにもスケートパークの設置を進めるべきではないか。
- ・健康増進として、県のウォーキングマップに坂井市の6コースが紹介されているが、市として、普及啓発や、さらに詳しいコース紹介はできないか。また、現状ではどのように、このコースが利用されているのか。
- ・海・川・山を持つ坂井市として、市全域を使うトライアスロンのコース設定と、市全体でおもてなしができる誘致はできないか。

4 戸板 進 議員（志政会）

（1）第三次定員適正化計画について

- ・職員の適正な定数をどのように考えるのか。
- ・市民生活課の受付業務や会計課の収納業務を民間に委託できないか。
- ・標準財政規模における職員給の占める割合は、どれくらいが妥当と考えるのか。
- ・組織において、年齢層における人数割合は一定数が必要と思うが、現在の割合についてどのように考えるのか。

5 後藤 寿和 議員（志政会）

（1）無料公衆無線LANサービスとアプリの整備について

- ・市が整備している無料公衆無線LANサービスの整備は図書館だけなのか。
- ・今後、市内の無料公衆無線LANサービス整備計画はどのように計画しているのか。
- ・東尋坊や丸岡城、また市内の無料公衆無線LANサービスの認証連携等をし、相互にPRして、市内の無料公衆無線LANサービスの地図などの作成をしてはどうか。
- ・無料公衆無線LANサービスを通じてロゴなどを統一して地域内の一体感を出し、坂井市を周知してはどうか。
- ・インバウンドの来街者に対して、無料公衆無線LANサービスの言語対応は行われているのか。
- ・市民の生活利便、防災、観光といろんなことが無限に広がる市の行政によるアプリを作成してはどうか。

6 辻 人志 議員（政友会）

（1）学校・幼保園などにおける給食について

- ・市の学校や幼保園などの給食について、子どもたちや保護者、市民の声は。
- ・それぞれの運営形態は。また、そのメリット・デメリットをどのように考えているか。
- ・安全性について、その管理体制は。また、食物アレルギーへの対応は。
- ・食材の調達について、無農薬食材の導入や地産地消の推進を積極的に行っているか。
- ・調理現場の人員体制は十分確保されているか。また、快適な職場環境のもとで業務

が行われていると考えるか。

- ・設備の老朽化が進んでいる給食施設の改修・改築計画は。

(2) 公共施設における木材利用について

- ・今後、本庁や支所、コミュニティセンター、駅舎等の増改築が予定されているが、木材の積極的な利用についてどのように考えているか。

7 川畑 孝治 議員（政友会）

(1) 待機児童について

- ・現在の待機児童の数は。
- ・春江地区において、新築住宅の建設が多く若い世代の転入が進んでおり待機児童がいる。早急な対策が必要では。
- ・今後、年間を通じて待機児童を出さないための対策は。

(2) 子どもの交通安全について

- ・子ども自身が、自分の身を守るための取り組みになっているのか。
- ・愛護センターのパトロールが行われているが、車にマグネットで貼る街頭補導パトロール中と書かれたプレートの管理は。

(3) サンセットビーチについて

- ・かなり以前のサンセットビーチのように、子どもが安心して遊べる遠浅で広く低い砂浜に戻しては。

8 川端 精治 議員（志政会）

(1) 坂井市の省エネ設備の導入について

- ・2020年の照明器具省エネ性能基準の強化により、将来的にLED照明へと切り替わる事になるが、高天井や屋外照明などに適している省エネ光源である「無電極ランプ」の導入も必要であると考え。市の所見を伺う。
- ・今後の本庁舎整備計画やコミュニティセンター改修工事などに、LED照明と共に無電極ランプを適材適所で導入していくべきと考え。市の所見を伺う。
- ・2020年の基準強化によって、体育館の水銀灯メンテナンスの支障が予測される。高天井照明に適している「無電極ランプ」の導入計画の必要性について教育委員会の所見を伺う。

9 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団）

(1) 空き家等対策について

- ・「空き家対策推進室」あるいは「空き家等対策プロジェクトチーム」の設置や、財務部・市民福祉部・総務部・建設部など庁内検討委員会を設けるなどの体制づくりをし、積極的な取り組みを求める。
- ・一人暮らしに不安を抱える高齢者の共同生活の場として、空き家をシェアハウスにするためのリフォーム支援事業を。

(2) 国の最低賃金の底上げによる、非正規職員の給料の基準額の引き上げを

- ・非正規職員の時給を最低1000円にすべき。

10 田中 哲治 議員（志政会）

(1) 福井しあわせ元気国体と東京五輪・パラリンピックにおける本市の食文化（農林水産物）PR活動について

- ・現在、食文化（農林水産物）のPRは、シティセールス推進事業としても積極的に実施しているが、福井しあわせ元気国体・元気大会に向けて、どのような考えなのか。
- ・福井しあわせ元気国体・元気大会の本市での経済波及効果額、また雇用誘発効果の推計は。
- ・食文化の面から、おもてなしの創作料理や料理コンテストなどの開催の考えは。
- ・東京五輪・パラリンピック大会での、本市の食文化（農林水産物）を積極的にPRすることについて、危害分析重要管理点（ハサップ）を取得しないと、東京五輪会場に飲食物を提供できなくなる。本市にも自然豊かな農林水産物があり、県や農業団体等と連携して、事前キャンプまたは会場へ本市の食文化のPR、また提供できる施策を講じなければと考えるが。
- ・福井しあわせ元気国体、東京五輪事前キャンプ等での食文化と併せて観光事業も積極的なPRが大事と考えるが、どのような考えか。

11 松本 朗 議員（日本共産党議員団）

(1) 安倍内閣の社会保障政策 坂井市民への影響

- ・2014年度から実施され、拡充されている70歳以上の窓口負担2割への引き上げ、入院給食費の負担増、紹介状なしの大病院受診の定額負担徴収による、坂井市民の本人負担増総額はいくらか。
- ・介護保険で2015年度からの「2割負担」の導入、介護施設利用者の低所得者に対する食費・居住費を軽減する「補足給付」の対象の縮小額はいくらか。
- ・生活保護における、生活扶助費、住宅扶助費、冬季加算の切り下げに伴う影響額。
- ・2015年12月の閣議決定「社会保障改革の工程表」では、年金、医療、介護、生活保護の各分野で国民負担増が目論まれている。これらが実施に移される場合の市民負担増はどれくらいになるか。
- ・こうした社会保障の削減は、住民を疲弊させるのみならず、地域を疲弊させることに連動すると考えるが、いかがか。
- ・市長は、政府のこうしたやり方は、市民生活にプラスになると考えるか。それともよくないと考えるか。市民生活に責任を持つ市長として、負担増計画に対する見解を求める。
- ・市民負担増を軽減するための、市としての具体的対策をとるべきでないか。例えば、医療費窓口負担の軽減、介護保険利用者負担の軽減など。

1 2 永井 純一 議員（公明党）

（1） 防災について

- ・防災に専念する部署の創設が必要と考えるが、所見を伺う。
- ・災害時に稼働できる状況にあるかどうか伺う。

（2） 子育て支援について

- ・少子化対策、定住・移住促進の観点から、高校生および19歳未満の医療費助成、無料化はできないか伺う。

1 3 上坂 健司 議員（政和会）

（1） 坂井市行政運営における「観光と文化」の位置付けについて

- ・教育委員会の文化振興係（一部）を市長部局へ移管し、観光振興係・広域観光係とともに行政組織を統一し、観光と文化の一元化の見直しはどうか。
- ・東尋坊、丸岡城、ゆりの里公園の「点」から「線」そして「面」への周遊観光ルートの取り組みはどうか。
- ・坂井市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた、日本型DMOの取り組み状況、また三国湊版DMOの推進状況はどうか。

（2） 三世代同居等の対策について

- ・本市の三世代同居等世帯の推移と、既存事業の相談件数、実績はどうか。
- ・三世代同居と「自助、共助」の促進の関係について、どのような認識を持っているのか。また、合計特殊出生率との相関関係はどうか。
- ・子育て支援、高齢者支援、住宅支援、世代間交流など、本市の豊かな持続力ある社会づくりの構築を目指した、三世代同居推進へ今後の市独自の施策はどうか。

1 4 田中 千賀子 議員（政和会）

（1） 学校給食の運営について

- ・今後の市の学校給食のあり方は。
- ・どのような方式になっても食材の発注は、市で責任を持ってやるべきと考えるが。
- ・地産地消の取り組み状況は。
- ・学校給食と食育の推進について。
- ・給食残渣のリサイクルについて。

（2） 新地域支援事業について

- ・要支援認定者が何名いるのか。認定者の方たちは、どのような介護保険を利用しているのか。
- ・元看護師、元介護福祉士で退職された方、今、職を離れている方は、何人いるのか。
- ・集いに出て来れない高齢者の支援をどのように考えているのか。
- ・保健師を増やすことにより、お年寄り、子ども、引きこもっている若者たちへの対応ができると思う。保健師の増員についての考えは。
- ・ボランティアをつくるための研修会は何名受けているのか。研修を受けた方の活動はどのようにしていくのか。